【愛媛】愛媛大学医学部付属病院

初期研修中の皆さん、医師としての生活にはもう慣れましたか。たくさんの科をローテートするなかで、泌尿器科の魅力に気づいてくださって嬉しいです。3年目以降のイメージは徐々に固まってきたでしょうか。愛媛大学泌尿器科での専攻医生活、意外かもしれませんがかなりおすすめなので、少しお話させてください。

立地

愛媛大学医学部付属病院は愛媛県東温市にあります。県庁所在地である松山市からは車で15分という程良い距離感、電車で移動する場合も乗り換えることなく1本で到着します。もちろん周りの自然は豊かで、滑川渓谷や白猪の滝などダイナミックな自然を満喫できます。

対象疾患

泌尿器科が扱う疾患が幅広いことは、学生時代の試験範囲などでご存じかもしれません。腎癌や膀胱癌などの悪性腫瘍は頻出項目だったことでしょう。しかし、病気は癌だけではありません。慢性腎不全に対する透析や腎移植、骨盤臓器脱、小児泌尿器、男性不妊といった様々な疾患が泌尿器科の対象になります。当院にはこの全ての領域にスペシャリストがおり、幅広い視野で学んでいくことができます。

手術症例数について、ロボット手術は全国トップクラス、腎移植は月2回、骨盤臓器脱手術はほぼ毎週、小児泌尿器手術は長期休暇に合わせて希望されることが多く年間10例程度です。その他、経尿道的手術や前立腺生検、内シャント造設術などを合わせると年間700例以上の手術を行っております。

キャリアパス

キャリアアップの過程や必要水準を「キャリアパス」と呼びます。当科のキャリアパスはおおまかに、以下のような流れです。

専攻医1年目：まずは診察や検査、手術の流れを覚えます。準備がスムーズにできるようになったら、実際の手技もメインで行っていきます。診察の流れが掴めたら外来デビュー、手術としては経尿道的手術や内シャント造設術などを執刀医として行います。

専攻医2-3年目：関連施設の市中病院で更に多くの症例を学びます。1年目でしっかりと流れが掴めているので、症例数が増えても落ち着いて対応できることでしょう。

専攻医4年目：専門医試験があります。もちろん勉強は必要ですが、これまでの経験で知識量もかなり増えています。安心して試験に臨んでください。

専門医資格を得た後の進路は様々です。大学院へ進学する、サブスペシャリティ（更に深く極めていく領域）を確立するために留学する、内視鏡認定医の取得に向けて手術手技の習得に励むなどなど。もちろんそれ以外の道もあることでしょう。

また私生活について、特に女性の場合には、結婚・妊娠・出産などに伴うライフワークバランスがどうなるのか、不安に思われる点があるかもしれません。この点についても、安心して医局にご相談ください。現在、専攻医12人中5人が女性医師です。ライフスタイルも様々で妊娠・出産の相談もありました。皆さんの希望を実現させるため、医局は協力を惜しみません。

いかがでしょうか。ここまで読んで、ほんの少しでも愛媛大学での研修に興味の沸いた先生、ぜひ一度見学にいらしてください。手術日は月水金、見学したい内容を事前にお伝えいただければ、調整も可能です。また、日本泌尿器科学会は初期研修医を対象に年2回、サマースクール・ウィンターセミナーというものを開催しています。泌尿器科の魅力、やりがい、奥深さをつたえるプログラムが目白押しのようで、これまでの参加者は皆やる気に満ち溢れて帰ってきました。全国から約100人の同期が集まりますので友人も増えます。お互いに良い刺激を受ける良い機会ではないでしょうか。参加には医局からの推薦が必要です。こちらも興味のある先生はぜひご連絡ください。お待ちしています。

連絡先

泌尿器科医局　TEL: 089-960-5356　FAX: 089-960-5358
Mail: question-u@m.ehime-u.ac.jp

© The Japanese Urological Association.

【大阪】大阪母子医療センター

大阪母子医療センター（旧：大阪府立母子保健総合医療センター）は、大阪府域における周産期医療の基幹病院として、1981年10月に診療を開始しました。新生児科は’コウノドリ’のモデルとなった先生が在籍していたことでも有名です。1991年には小児医療部門と研究所が開設され、それに伴い泌尿器科も診療をスタートしました。2006年に地方独立行政法人に移行し、2017年から現在の名称になりました。

泌尿器科といっても大阪母子医療センターの性格上患者はほとんどが小児で、仕事の内容は非常にユニークです。成人と異なり、腎・尿路系および生殖器系の先天性疾患が主な対象となります。腎・尿路系の代表的なものは水腎症、多嚢腎、巨大尿管、膀胱尿管逆流症、尿管瘤、後部尿道弁などで、出生前超音波検査で見つかる場合も少なくありません。当科では産科、新生児科との協力のもと胎児に対しても積極的に診療に取り組み、豊富な経験を生かして知識の提供や治療方針の選択に関するアドバイスを行っています。また、腎・尿路の評価に重要な造影検査、RI（ラジオアイソトープ）検査は泌尿器科医師が積極的に参加し、被曝量を最小限に抑え、かつ小児に見合った正確な情報が得られるよう努めています。生殖器系疾患の主なものは停留精巣、尿道下裂などで、乳児期より多くの手術を行っていますが、尿道下裂修復術は高い技術が求められるため全国的にも限られた施設に患者が集中する傾向にあり、年々症例数が増加しています。さらに、性分化疾患（Disorders of sex development：DSD）に対しては日本でも有数の試みですが、多職種協同のチーム医療に努めながら細やかでかつ迅速な対応を心掛けています。また、ストマを有する症例に対しては特殊外来を設け、排泄に関する相談・管理を行っています。

現在常勤医3名、レジデント2名で診療を行っています。当科は本邦屈指のhigh volume centerとして知られ、全国から小児泌尿器科の臨床を学ぶ多くの先生方をお招きしています。歴代の先生方は、現在も出身地で小児の専門家として活躍しています。また、一般の泌尿器科に比べて例外的に女性医師が多いのも特徴の一つです。

小児泌尿器科は特殊な分野ではありますが、停留精巣や膀胱尿管逆流など成人の泌尿器科医にも身近な疾患は少なくありません。また、専門医制度においては当然習熟すべきとされる手術手技が含まれています。成人の施設ではみることのない症例も多く、若いうちに経験を積まれてはいかがでしょうか。きっと将来に向けて視野が広がるはずです。

© The Japanese Urological Association.

【愛知】蒲郡市民病院

蒲郡市民病院について

当院は、三方を山、そして南を三河湾に囲まれた、温暖で風光明媚な観光の街である愛知県蒲郡市にあり、愛知県東三河南部医療圏の中核病院として、蒲郡市民約8万人を始め、周辺地域を含めた約12万人の二次医療を担っております。昭和20年に開設され、平成9年に現在の場所に移転し、卒後臨床研修評価機構認定病院として研修医教育に携わっております。現在20診療科52名の常勤医、8名の臨床研修医により、382床を切り盛りし、当院の基本理念である「患者さんに対して、最善の医療を行う」ことを目指し、日々頑張っております。

蒲郡市民病院泌尿器科について

当科は、名古屋市立大学泌尿器科専門研修プログラムの研修施設の一つとして専門医教育を行っております。平成23年4月より常勤医師が不在となり、名古屋市立大学大学院医学研究科腎・泌尿器科学分野からの代務医師による、外来診療のみ行っておりましたが、平成30年4月から常勤医師として筆者が赴任し、手術や化学療法などの入院治療が可能となりました。また令和元年5月から常勤医2人体制となり、さらに診療の範囲が広がり、研修医の積極的な指導も開始しております。この赴任の際に、愛知県下では初めてとなる試みが始まりました。蒲郡市が名古屋市立大学大学院医学研究科に診療や地域の医療課題の研究、医師の教育などを行うために「地域医療教育研究センター」を設置しました。名古屋市立大学大学院医学研究科において教員を募集、選考委員会で任命し、大学の教員の資格を持ったまま蒲郡市民病院に赴任できるシステムが新たに作られました。筆者はこのシステムにより名古屋市立大学大学院医学研究科地域医療教育研究センターの教員として当院の泌尿器科へ赴任いたしました。この体制により、医局単位ではない強固な施設間の連携が構築され、技術や人員の確保が図られ、当院の新しい目標である「大学病院に遜色のない医療の提供」を行うことが可能となりました。

泌尿器科外来スタッフ

この体制の拡充に伴い、ほとんどの泌尿器疾患に対する外来治療、入院治療、検査、手術が行えるようになりました。患者さんに負担の少ない経尿道的内視鏡手術、腹腔鏡手術を積極的に行い、さらに施設基準を満たしたことで、令和元年7月からda Vinci Xiを用いたロボット支援下前立腺全摘除術を開始しました。当院がある愛知県東三河地域では現在da Vinci Surgical Systemを保有する施設は2カ所のみであり、地域における先進的な医療を行う病院としての役割を果たすべく、安心安全はもとより、専門性の高い医療を行うことも目指しております。そのため急速に患者様の数が増えており、当科で研修することで、地域医療に根ざした一般的な疾患から高度な医療が必要な疾患まで幅広い症例を経験できると考えております。

チームダヴィンチメンバー

医学部学生、研修医の皆様へ

人員が拡充されたとは言え、まだまだ「こじんまり」とした病院であることには変わりありません。しかしその分、各診療科間の垣根も低く、研修医に対してもアットホームな雰囲気であると思います。一つ一つの経験を大切にしながら自分のペースで研修できることも特徴と考えております。希望があれば、研修医の時期から学会への参加や発表も積極的に行い、経験と知識を補完する研修を行いたいと考えております。ぜひ一緒に幅広い経験を持った泌尿器科専門医を目指しましょう。そしてその取り組みの中で、その後につながる自分の専門性をきっと見つけることができると考えております。医学部学生、研修医の皆様、興味を持たれたら、どうぞお気軽にご連絡いただけたらと考えております。

手術件数

術式		平成30年度	平成31年度（4月～12月）
ロボット支援手術	前立腺全摘除術	0	10
腹腔鏡手術	腎または腎尿管全摘除術	8	10
	前立腺全摘除術	0	5
	膀胱全摘除術	0	3
	その他手術	1	0
開腹手術	腎摘除術	1	0
	前立腺全摘除術	3	2
	膀胱全摘除術	0	4
	その他手術	1	5
経尿道的手術	膀胱腫瘍切除術	49	40
	前立腺切除術	31	7
	尿路結石砕石術	23	14
	その他	1	6
小手術	包皮環状切除術	4	2
	陰嚢水腫根治術	4	2
	精巣固定術	3	0
	精巣または精巣上体摘除術	3	3
	その他手術	2	17
	前立腺針生検	72	66
計		206	186

文責：中根明宏（泌尿器科特別診療科部長、名古屋市立大学大学院医学研究科地域医療教育研究センター講師、連絡先　病院代表：0533-66-2200、E-mail：aki-nakane@ams.odn.ne.jp）

© The Japanese Urological Association.

【千葉】慈恵医科大学附属柏病院

・始めに

全国の泌尿器科を目指す若手医師の皆さんこんにちは!私は当院勤務1年目、泌尿器科として四年目で頑張ってやらせてもらってます、松浦泰史と申します。若手が多い病院であり、上司が3人、同期が3人、後輩が4人という丁度真ん中の学年である立場から当院の魅力をお伝えできればと思います!

・最高の立地条件

当院は都内山手線上野駅から特急で約15分前後の柏駅近くに立地します。都内からのアクセスも良好で約半数以上は都内から通勤しています。柏市自体は約50万人の人口、大手百貨店や家電メーカーが駅前で出迎えてくれ老若男女で非常に賑わい千葉の渋谷と言われて久しく、手賀沼など自然豊かでもある非常に魅力的な街です。柏市に魅了され都内から柏市に敢えて引っ越しされる先生も多いというのも納得の事実です。

■ダイバーシティ

国公立、私立問わず他大学出身が過半数を占めており、出身大学は関係なく意欲さえ有れば手術執刀医、学会発表、論文作成を行う事が出来ます。現在では山梨大学、宮崎大学、京都府立医科大学、東海大学、東邦大学、杏林大学出身者が所属し全国から集まっているため、言語、食生活、睡眠時間、金銭感覚など多様性に富んだ環境となっております。

・手術件数の多さと学習環境

当院最大の魅力は何と言っても手術件数と言えるでしょう!膀胱全摘に関しては年間40例前後と全国トップクラスの症例数を誇り、腹腔鏡下腎摘出術、副腎摘出術、腎尿管全摘出術、腎部分切除に関しても申し分ない症例数を経験出来ます(症例数は公式ホームページをご覧になって下さい)。連携施設でのロボット支援前立腺全摘術、結石治療の習得も可能です。勿論TUR、包茎などの小手術も相当数経験出来ます。経験出来ない手術はほぼないと言っても過言ではないでしょう。レジデントが腹腔鏡で執刀した手術に関しては、自分でビデオ編集する事が必須でありカンファにて全員で供覧し議論する事を習慣化しております。まだ経験の少ない若手医師でも、より早く、より効率的に手術手技を学ぶこと事が出来るよう、手術の手順を言語化し共有しており、インプット⇆アウトプット両方の教育システムが整っている類い稀な施設だと思います。また術式に関しても常に良い方法があれば日々アップデートしており、良い意見があれば学年関係なく取り入れてくれる環境と言えるでしょう。

・周辺地域病院とのwin-winの関係

医員の大多数が千葉の東葛地域の常勤泌尿器科医のいない病院での泌尿器科外来を担当し、病棟などで困った泌尿器科疾患合併症例も対応しております。手術が必要になった場合は当院へ紹介し手術する事も多く、地域病院との連携を密に行いwin-winの関係を構築しています(大きな声では言えませんが、それ故給与も十分確保されます)。また提携病院である隣町我孫子市の我孫子東邦病院はda vinci手術を導入されており、若手でもロボット手術の修練を行う事が出来ます。結石治療も全国トップクラスの治療数と技術を誇る施設であり、結石治療も学ぶ事も出来ます。

・柏から世界へ

以上のように当院は千葉の中核都市として地域医療に貢献しながら、普段の取り組みや治療成績を国内の学会は勿論の事、AUAやEAUなど海外学会への発表、論文執筆も積極に行い世界標準を目指しています。柏で得たものは世界に、世界から得たものは柏に還元するため日々業務に取り組んでいます。

・最後に

大変申し訳ありません、時間切れで魅力を全て書き切れませんでした。

'**慈恵柏 泌尿器科 公式**'で検索して頂ければ公式ホームページで全貌が把握出来るかと思います!当院は慈恵医大関連施設でありますが、柏病院独自の後期研修プログラムも2020年より開始しております。(詳細は公式ホームページで確認して下さい)満足の行く研修期間になると医員一同確信しておりますので、いつでも連絡いただければと思います!

© The Japanese Urological Association.

【福島】ときわ会常磐病院

<病院概要>

ときわ会常磐病院は上野駅から特急ひたち号にのって約2時間の「湯本駅」からタクシーで5分ほどのところにある病院です。皆様ご存知の「スパリゾートハワイアンズ」も近くにあり、湯本駅からハワイアンズへ行くバスにのると右側に病院が見えます。

病床数は一般床150床、療養床90床の規模の総合病院です。もともとは「いわき泌尿器科」という施設がときわ会のスタートだったため、泌尿器科の診療が充実した病院として地域には知られています。

また、透析治療も病院の大きな特徴であり、透析148床を有し血液透析のみならず、腹膜透析にも積極的に取り組んでいます。

新村浩明院長は泌尿器科医師ですが、ハワイアンズにちなんで、いつも「アロハ」です。その姿で診療を行ったり、「ちょんまげ」の仮装で患者さん宅を慰問するなどユニークなキャラクターで知られています。一方、手術室に入ればロボット前立腺手術やロボット膀胱全摘を迅速、的確に行なっています。

泌尿器科常勤医師は新村院長含め5名ですが、ほかに東京女子医大、東邦大学病院泌尿器科をはじめ、さまざまな施設の先生方に外来、手術、当直の応援を非常勤としていただいています。

当院では前立腺癌、腎癌、膀胱癌、腎盂尿管癌など泌尿器癌診療はもちろん、前立腺肥大症や骨盤臓器脱、尿失禁、尿路結石症の診療、ブラッドアクセスの診療や緩和治療まで幅広く研修を行うことができます。

現在、東京女子医大泌尿器科からの派遣で2名の後期研修医の先生が充実した研修を送っています。

<後期研修医の先生へのインタビュー>

・O先生

症例が多く、主治医として手術、処置などに関わらせてもらっています。経尿道的手術（TUR-BT、TUL）とシャント作成は自分が術者として自信をもってできるようになりました。ロボット前立腺手術では、術者として完遂することはまだできませんが、全体の流れはわかり、任せてもらえるところも増えてきています。

ハロウィンの仮装する泌尿器科医師たち

病棟、外来の看護師さんをはじめとしたスタッフは優しく、外来診療もまかせてもらえるので非常にやりがいがあります。

週末は、隔週できちんと休めます。給料もしっかりもらえて満足です。家も広く、リラックスできます。

当直は月3-5回程度ありますが、他施設よりは少ないのではないかと思っていますし、しんどくはありません。

食事は病院ででるので、全部食べています。

学会は演題選定などで上級医の先生が相談にのってくれるので、発表もできますし、アメリカ泌尿器科学会にも参加してこられて、楽しかったです。

（研修医の先生へのメッセージとして、）慣れるまでは大変ですが、慣れてくれば自由度もあがり、やりがいもすごくあります。

・M先生

手術は小手術からロボットの膀胱全摘まで幅広く経験することができます。

病院自体も泌尿器科疾患があらゆる分野の患者さんがおられるため、いい病院です。

自分はこちらにきた時は、ロボットのコンソールに座ったことはなく、助手しかしたことはありませんでした。現在は症例にもよりますが、ロボット前立腺手術が完遂できるようになってきています。

外来診療については、自主性に任されているので、以前は時間はかかりましたが現在は効率よく診療できるようになってきたと思います。自分で方針を決めることができます。

当直については、外科系もしくは全科の当直になります。泌尿器科以外の疾患を見ることもときにはあり、成長できます。

国内の学会、アメリカ泌尿器科学会にも参加でき、これは嬉しかったです。

（研修医の先生へのメッセージとして、）2年間の研修で、おそらく他の施設の5-6年分の症例を経験できます。手術に興味のある先生はぜひ!

<充実した環境整備>

ダビンチXi（2019年12月導入）をはじめ、ホルミウムレーザー（HoLEP、結石破砕）、ESWL、軟性膀胱鏡、軟性尿管鏡など泌尿器科の最新の機器が完備しています。

病院のそばに当直明けの疲れた時などにすぐに横になれるよう、個人用のワンルームの宿舎が用意されています。

そことは別に、マンションが提供されます（家賃半額補助）

単身赴任の先生が多いので、病院内の職員食堂にて朝昼晩と1日3食、バイキング式の食事が提供されています。

お茶やコーヒーはじめ、ペットボトルの飲み物は冷蔵庫にあり、いつでも飲んでいただけます。

院内に職員用の温泉施設があり、当直時はもちろん、仕事の終わった後などに大きなお風呂で一風呂浴びて帰ることもできます。

職員食堂のメニュー

<症例数>2019年1月～11月の主な手術症例数（表）

手術内容（2019年1月～11月）	件数
ロボット前立腺悪性腫瘍手術	107
ロボット腎部分切除術	25
ロボット膀胱全摘除術	8
腹腔鏡下腎（尿管）摘出術	26
HoLEP(レーザー前立腺核出術)	89
TUL（経尿道的尿路結石破砕術）	109
内シャント造設術	129

<新村院長からのメッセージ>

若いうちから積極的に術者として内視鏡手術、ロボット手術、腎移植などの経験を積むことが大事と考え、研修医の先生に術者として指導医の指導のもとにどんどん手術をしてもらっています。

外来も後期研修1年目からすぐやってもらいます。もちろん、悩んだりわからないこともあるので見守りながら、いつでも上級医に相談できる環境を提供しています。

術者としても外来医としても独り立ちができるように、圧倒的に症例がたくさん経験できる強みをいかした実践的な研修を行なっています。

学会発表も国内はもちろん全て病院から費用がでますし、アメリカ泌尿器科学会（AUA）の参加も、第一線の泌尿器科診療の知識に触れてもらいたいということで費用を出しています。

ぜひ常磐病院で研修をしてください。見学も歓迎しています。

© The Japanese Urological Association.